

第46号

平成28年9月30日(金)

(株)アイ・アンド・アイ企画
(株)IBC開発センター
(有)アド オフィス ミュー
(株)アド東北盛岡支社
(株)岩手広告社

岩手日報アド・プランチ(株)
(株)岩手日報広告社
(株)ウインドクロス
(株)オリンピック企画
(株)北東北サンケイ広告(株)

(株)コスモビーアール
(株)ジェイアール東日本企画盛岡支店
(株)総合広告社
(株)東広社
ナチュラルコム(株)

(株)東日本朝日広告社盛岡支店
(株)東北博報堂盛岡支社
(株)読売岩手広告社
(五十音順)

名曲とアルコールに酔う 「納涼ビアパーティー」盛況



歌とアルコールで厳しい残暑を忘れた納涼ビアパーティー

岩手県広告業協会の恒例「納涼ビアパーティー」は、8月19日夜、ホテル東日本で開催された。特別賛助会員、賛助会員社を含む約160人が厳しい残暑を吹き飛ばすよう楽しく交流した。八重樫信男理事長が「リオ五輪も盛り上がりつつある。国体本番まで40日余り。被災地の復興のシンボルとなるようにしましょう」。来賓の川井博之岩手日報社常務取締役販売・広告事業担当は「五輪のメダル数が多い時は景気が良いという。残暑を乗り越えて国体が被災地の元気になるようにしたい」とあいさつした。

アトラクションは、岩手国体開会式典で東日本大震災岩手オリジナル復興支援曲を歌う、岩手町出身の歌手・柴田泰孝さんが「愛の讃歌」「マイウェイ」を声量豊かに歌い上げて会場から大きな拍手がわいた。

来秋の東北ブロック会議盛岡大会

実行委発足、福島視察へ

岩手県広告業協会（八重樫信男理事長）の平成28年度通常総会は、4月14日に盛岡グラウンドホテルで会員社18全社が出席して開かれた。

来年秋に開催予定の全国広告業団体連絡会議東北ブロック会議盛岡大会に向けて特別委員会を設置することを決めた。6月の理事会で大会実行委員長に、総務委員長の羽川久美理事を選任。実行委員に総務、企画両委員会のメンバー8人を選んだ。11月に福島県で開かれる東北ブロック大会を視察し、実行委員会を中心にして盛岡大会成功に向けて準備が本格化する。

ブロック大会は6県の持ち回りで開催され、本年度は第20回。11月17、18の両日に福島県いわき市が会場。視察団は八重樫理事長、羽川委員長、実行委員2人を含め6人となる。大震災

から5年が経過した福島県の現状を確認するとともに大会運営の在り方などを視察する。

大会会長などの人選は、来年度総会での役員改選を終えてから正式に決める。

実行委員は次の通り。（敬称略）

▽委員

明石祐司 熊谷慎也 佐々木徹
高杉利彰 中村淳 伊藤岳 林徹
村井義昭

コンプライアンス徹底を

昨年から今年春にかけて会員社が、指定管理者となつていてる県の複合施設の入館者数を水増した事実と大槌町から委託された震災誌編

◆企画委員長に宮澤氏が昇格

八重樫信男理事長は、空席となつていた理事企画委員長に委員長代行の宮澤俊次ナチュラルコム代表取締役社長を選任した。副委員長は林徹東広社取締役営業本部長が務める。6月の理事会で承認された。

渡辺章東北博報堂盛岡支社長が昨年12月に辞任、副委員長だった宮澤氏が代行していた。任期は来年3月まで。

集の実務を印刷業者に任せ切りにした事実が相次いで表面化したことで、八重樫信男理事長は4月の通常総会の挨拶で「業界として残念な事実が続いた。会員社挙げて社員強化を図っていただくようお願いする」と、業界全体の信用を揺るがしかねない認識を示しコンプライアンス（法令順守）をあらためて訴えた。

2件に関連した東北博報堂本社執行役員の笹嶋直紀執行役員は総会に出席し「多大な迷惑をかけ深くお詫びする。コンプライアンス、公的義務感を持つて二度とないようにする」と謝罪した。

◆平成28年度下半期の行事(予定)

通常総会で承認された下半期の行事は次の通り。

11月17日(木)

社員研修セミナー プラザおでつて

1月11日(水)

新年交賀会 ホテルメトロポリタン盛岡

ニューウイング

2月24日(金)

親睦ボウリング大会 ラウンド1

新理事と会員社新トップの横顔紹介

モットーは「あ・た・ま」。「明るく、楽しく、前向きに」の頭文字だ。仕事も遊びも笑顔を絶やさず、エネルギーにこなす姿を見れば納得出来る。

学生時代にTVコマースィアルを見て「こんなものを作ったら格好いい」と広告に目覚めた。大阪万博前年に「Oh!モーレッツ」のキャッチコピーで大反響だった小川ローザは、さしずめ開運の女

神というところ。

東北新幹線盛岡開業を控えた

理事企画委員長 宮澤俊次さん

(ナチュラルコム 代表取締役社長)

昭和55年、「古里が変貌する」

と一念発起。都内の広告代理店を辞めてオリンピア企画に入社。30歳のUターンだった

は東京の自宅に住む。

「幼なじみがいらない」と寂しがる古里で、友人はスポンサーや広告会社は

石川 亮さん

(岩手広告社 代表取締役社長)

じめ仕事関係者が多い。

趣味はゴルフ、料理など。海釣りも大好きで、「仕事のリズムにもなれてきたので、

組制作部門で過ごした。

ラジオ時代は、気仙沼市の養殖カキ魚家・畠山重篤さんの「山は海の恋人」活動を知り、畠山さんの自宅に押しかけて取

駒井 一郎さん

(IBC開発センター 代表取締役社長)

材しキャンペーンを張った。テ

レビ時代にはドキュメンタリー番組に携わり、自然環境保全にも打ち込んだ。ジャーナリストではあるが、趣味の釣り

た。仕事では岩手競馬の全盛期を支えるなど活躍したが「自分の生まれた街を良くしたい」と50歳の節目に独立。ナチュラルコムを創業した。

生まれ育った盛岡駅前をホームグラウンドに、社会貢献にも努める。「頼まれれば、お手伝いする」と町内会や商業関係団体、同窓会など多くの役職を兼ねる。週

1回は桜城小の学区見守り隊メンバーとして街頭に立つ。剣道二段の腕前。中学校時代に鍛えた体力は衰

えを知らない。趣味は料理作り。休日には2時間程度は台所に立つ。一緒に暮らす母と妻へのサー

三陸の釣りを16年ぶりに始めたい」と話す。「帰宅するのは盆と正月ぐらい」と家族に会えない寂しさを慰めるわけでもないが、趣味を生かして自宅で作った料理を

写メに残している。前社長の千葉正範常勤顧問は、入社時に「仕事を教わった」直属の先輩。

好きな言葉が「義理と人情」の新社長は、先輩との固い絆で結ばれた二人三脚で仕事にまい進することは間違いない。

(6月23日就任)

を生かしてラジオ番組を担当するなど活動範囲が広い。料理はネットでレシピを見て包丁を振る。客人に振る舞うことも好きという本格派だ。魚を下ろすのは「行きつけのすし屋さんの主人に手ほどきを受け、会社を辞めようと思ったこともある」とプロ級。

ここ数年は「孫かて」にいそしむ。小学校の授業参観など学校行事に顔を出す。また2人で一泊旅行にも出かける。教育家だった父親の影響もあるに違いない。

(7月1日就任)

ピスも怠らない。数多くの肩書を持ち夜の会合も多い。会社でも社員と飲食でコミュニケーションを図る。お付き合いは一軒目だけ。はしご酒はしない。理由が、高所恐怖症なら大好きな落語の世界でオチとなるのだが…。

石川さんが初優勝果たす

岩手県広告協会、岩手広告協会(会長・東根千万億岩手日報社長) 共催の第26回親睦ゴルフ大会は9月8日、八幡平市の南部富士カントリークラブで、22人が参加して開かれた。

競技はダブルペリア方式で行われ岩手山コース、姫神山コース(いずれもパー36)で回った。岩手広告社の石川亮代表取締役社長がネット71・8で優勝、ベストクロスは総合企画新和の谷藤和弘代表取締役が輝いた。上位成績は次の通り。数字はクロス、ハンディ、ネットの順。敬称略。

▽優勝 石川亮(岩手広告社) 91/19・2/71・8▽準優勝 甘竹明久(読売岩手広告社) 84/12・0/72・0▽3位 藤澤利憲(岩手めんこいテレビ) 94/21・6/72・4▽4位 駒井一郎(IBC開発センター) 87/14・4/72・6▽5位 谷藤和弘(総合企画新和) 78/11ベストクロス/4・8/73・2▽6位 佐々木徹(岩手日報広告社) 88/12・0/76・0



岩手広告協会副会長の富永健治岩手朝日テレビ社長から賞品を受け取る岩手広告社の石川亮社長